



こどもの救急 相談・受診先

9月9日は「救急の日」です。夜間や休日などの相談・受診先を確認しましょう。

こどもの救急・病児保育



	昼間	夜間(23時まで)	23時以降
平日	■かかりつけ医 かかりつけ医とは、家族の最も身近な存在として、「相談を受ける」「予防接種をする」医師のことで、子どもが病気にかかったときは適切な治療を行い、必要であれば専門の病院を紹介し、普段から何でも相談できるかかりつけ医を見つけておきましょう。	■上田市内科・小児科初期救急センター 明日まで待てない急な症状に対して、応急的な内科的診療を行います。まずは電話でご相談ください。 所在地 緑が丘1-27-21 (信州上田医療センター敷地内) 電話相談 19:00~23:00 ●小児科(15歳以下の方) ☎21・2233 ●内科(16歳以上の方) ☎21・2280 診療時間 20:00~23:00 (受付 22:30まで) 休日 8月14日~16日、12月30日~1月3日 その他 症状に応じて、救急搬送(119番)や翌日の受診を勧められる場合があります。	■#8000(長野県小児救急電話相談) こどもの夜間のケガや急病で、対処に戸惑うときなど、応急対処の方法や受診の要否などについて助言を行います。 対応日時 毎日(19:00~翌朝 8:00) 対応者 小児科医の支援体制のもと、看護師や保健師などが相談に応じます。 利用方法 ●プッシュ回線・携帯電話 局番なしの「#8000」 ●ダイヤル回線・IP電話 「☎026・235・1818」 留意事項 症状に応じて、救急搬送(119番)や翌日の受診を勧められる場合があります。
日曜・祝日	■休日緊急医 新聞紙面や上田市医師会ホームページ、長野県休日・夜間緊急医療案内サービス(☎050・3033・0665)で確認しましょう。	■二次救急病院など #8000に相談し、緊急の受診が必要と判断された場合、受診できる医療機関を紹介し、	
通年	■ながの医療情報Net(長野県が運営) 診療科、曜日・時間帯、所在地などさまざまな条件から医療機関を検索できるサイトです。		

ながの医療情報Net



症状が重篤で緊急を要する場合は、ためらわずに救急搬送(119番)を要請しましょう!

☎ 地域医療政策室 ☎75・6787

子育て情報

乳幼児健診の日時は、健診日の1~2か月前に郵送でお知らせします。*上田地域の10か月児対象の個別健診は、通知はありません。各医療機関へお問い合わせください。

保健こよみ



令和6年度、保育園などの入園を検討しているみなさまへ

◆入園に向けて各園の違いを確認しましょう

☎ 保育課 ☎23-5132

「保育園などに預けたいけど、施設の違いがわからない」とお困りの方へ、令和6年4月以降の入園に向けて、各施設の違いを紹介します。



	小規模保育事業所	保育園	認定子ども園		幼稚園
			保育部分	教育部分	
対象者	0~2歳児	0~5歳児	満3~5歳児		
預けることができる人	保護者に理由(就労、出産、疾病など)があること		左記のような条件はなし(注園によってその他の条件がある場合があります。)		
保育料	0~2歳児	各家庭の市町村民税額により市が決定		無償化の対象(注幼稚園には上限額があります。)	
	3~5歳児	無償化の対象			
(注)通園送迎費、食材料費、行事費などは各園の規定により、保護者負担があります。					
申込方法	●10月2日(月)から入園申込書の配布開始 入園申込書は、各保育園、認定子ども園、保育課および各地域自治センターで配布します。 ●入園申込の日程などの詳細は広報うえだ9月号でお知らせします。				募集時期や要項は各園にお問い合わせください。

*園により、対象年齢や料金などが異なる場合があります。詳細は市ホームページまたは入園を希望する園に直接ご相談ください。

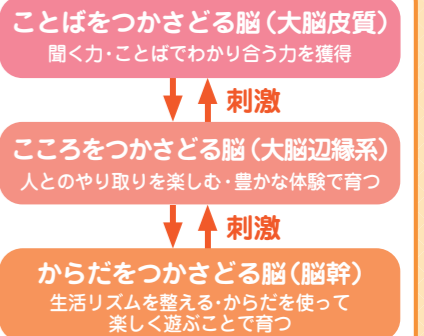
園の一覧はこちら



ことばをはぐくむために 子どもと一緒に楽しく遊ぼう

☎ 発達相談センター ☎24-7801

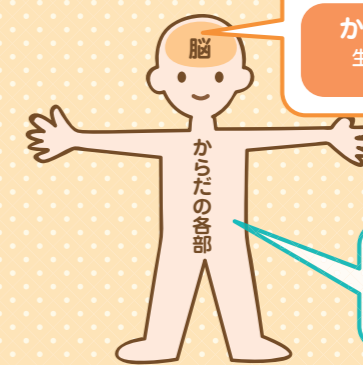
子どものことばを育てるためには、からだを使った楽しい遊びや体験に合わせて周りから語りかけられることばの積み重ねが大切です。からだを使ってたくさん遊び、「人とつながり合うのは楽しい」と思える経験を経て、ことばをつかさどる脳が育ちます。まずはお子さんの好きな遊びをみつけて一緒に楽しみましょう。



子どものことばをはぐくむ講演会

- 日時 10月21日(土) 14:00~
- 場所 ひとまちげんき・健康プラザうえだ
- 講師 中川信子氏(言語聴覚士)

*詳細は広報うえだ9月号でお知らせします。



からだの各部を使う遊び・経験

C型肝炎は治ります



人生100年時代を先取りした けんこう 健幸シリーズ

前回、慢性の肝臓病にはいろいろな原因があり、まず原因を調べることが必要だとお伝えしました。今回は、治療が劇的に進歩したC型肝炎のお話です。

その5



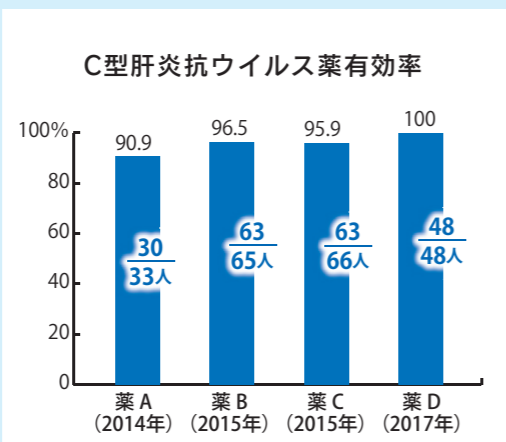
よしざわ かなめ 要
地域医療政策室 地域医療政策総合調整参事(独)国立病院機構 信州上田医療センター 名誉院長

肝がんの50%がC型肝炎に関連

C型肝炎ウイルスは血液で感染し、症状がなく気づかないことがあります。そして、70%の方は、治療せず、慢性肝炎となり、徐々に進行して肝硬変や肝がんとなることがあります。がんのうち、亡くなる人が5番目に多いのが肝がんです。そして、肝がんの50%がC型肝炎に関連しています。肝がんは初めは症状がなく、肝機能検査でも異常が分かりにくいいため、一度は肝炎ウイルス検査を受けることが必要です。

ほぼ100%ウイルスは消せる

市では「肝炎ウイルス検診」を行っています。以前は、インターフェロンという強い副作用のある注射しかありませんでしたが、2014年からは飲み薬だけになり、さらに2017年開始の薬Dは2~3か月飲むだけでほぼ100%ウイルスを消せるようになりました(図は、信州上田医療センターの2014~2022年の治療成績)。数百万円という高額な薬ですが、医療費助成制度があり、数万円の自己負担となります。今までの治療で効かなかった方



信州上田医療センター (2014-2022)

や症状のある肝硬変の方も治療できるようになりました。信州上田医療センターでは、C型肝炎で通院中のほとんどの方の治療が完了しました(その後の定期受診はあります)。現在、国もC型肝炎の撲滅に取り組んでいます。親族や知人などで不安な方がいましたら、ぜひこの内容をご紹介ください。

*対象は40歳以上の方で条件に該当する方。詳細は市ホームページをご覧ください。

